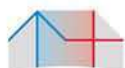


2020.10.17.Sat

WEB開催



男女共同参画
学協会連絡会

第18回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウムプログラム

女性研究者・技術者の 意志・能力・創造性を活かすために

～女性リーダーが例外ではない社会をめざして～

女性研究者・技術者の意志・能力・創造性を活かすために
～女性リーダーが例外ではない社会をめざして～

- 【日時】 2020年10月17日(土) 10:00～17:40
【場所】 ウェブ開催 (Zoom)
【主催】 男女共同参画学協会連絡会
【共催】 日本大学生物資源科学部、在日米国大使館
【後援】 内閣府男女共同参画局、文部科学省(申請中)、経済産業省、
科学技術振興機構、日本国立大学協会、日本私立大学連盟、国立女性教育会館



分科会 10:00～11:30

司会 吉永 直子(京都大学)、佐野 幸恵(筑波大学)

10:00～10:05 挨拶

熊谷 日登美(日本農芸化学会・日本大学生物資源科学部教授)

10:05～10:45 講演1「南極で活躍する女性たち」

原田 尚美 (JAMSTEC 地球表層システム研究センター長 第60次南極観測隊夏隊長)

座長 吉永 直子(京都大学)

10:45～11:25 講演2「キリングループの多様性推進とキャリア形成について」

神崎 夕紀(協和発酵バイオ株式会社 常務執行役員経営企画部長)

座長 佐野 幸恵(筑波大学)

11:30～11:50 Workshop Summary

Lily Cushenberry (Associate Professor, Stony Brook University's College of Business)

座長 熊谷 日登美(日本大学)

特別企画 11:50～12:30

11:50～12:00 第18期提言・要望活動の報告

熊谷 日登美(日本大学)

12:00～12:30 緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査報告

志牟田 美佐(東京慈恵会医科大学助教)

座長 野尻 美保子(高エネルギー加速器研究機構)

シンポジウム 13:20 ~ 17:40

総合司会 室田 佳恵子 (鳥根大学)

13:20 ~ 13:50 挨拶

第18期幹事学会挨拶 吉田 稔 (日本農芸化学会会長・理化学研究所・東京大学教授)

共催者挨拶 大矢 祐治 (日本大学副学長・生物資源科学部長・日本大学教授)

共催者挨拶 Kelsey De Rinaldis (Assistant Cultural Affairs Officer, U.S. Embassy, Tokyo)

来賓挨拶 松尾 泰樹 (文部科学省 文部科学審議官)

来賓挨拶 林 伴子 (内閣府 男女共同参画局局长)

13:50 ~ 14:30 基調講演1 「男女共同参画はゴールかツールか？」

上野 千鶴子 (東京大学名誉教授・

認定 NPO 法人ウイメンズアクションネットワーク (WAN) 理事長)

座長 裏出 令子 (京都大学)

14:30 ~ 15:10 基調講演2 「Advancing Women in STEM:

NSF Experiences Through the Decades」

Elizabeth Lyons (Program Director, Office of International Science and Engineering, NSF)

座長 熊谷 日登美 (日本大学)

15:10 ~ 15:50 基調講演3 「ポストコロナ社会の男女共同参画」

渡辺 美代子 (科学技術振興機構副理事)

座長 野尻 美保子 (高エネルギー加速器研究機構)

15:50 ~ 16:30 基調講演4 「学協会による男女共同参画活動の歩み」

栗原 和枝 (東北大学名誉教授・NICHe教授, 男女共同参画学協会連絡会第8期委員長

(第5期副委員長))

座長 原田 慶恵 (大阪大学)

16:30 ~ 16:40 休憩

16:40 ~ 17:30 パネルディスカッション

パネリスト 上野 千鶴子, 渡辺 美代子, 栗原 和枝

司会 北川 尚美 (東北大学)

17:30 ~ 17:40 挨拶

第18期委員長挨拶 熊谷 日登美 (日本農芸化学会・日本大学生物資源科学部教授)

第19期委員長挨拶 岩熊 まき (日本技術士会・株式会社東建エンジニアリングR&Dセンター所長)

若手女性研究者のリーダーシップ育成と ネットワーク構築のための Workshop

- 【日時】 2020年10月16日（金） 8:00～15:00
【場所】 ウェブ開催（Zoom）
【主催】 男女共同参画学協会連絡会
【共催】 日本大学生物資源科学部、在日米国大使館



【Workshop】 Zoom A

【講師】 Dr. Lily Cushenberry (Associate Professor, Stony Brook University's College of Business)

Workshop 1: 2020年10月16日（金） 8:00～9:30
Barriers for women in STEM and leading change

Workshop 2: 2020年10月16日（金） 10:00～11:30
Leading teams for innovative performance

Workshop 3: 2020年10月16日（金） 12:00～13:30
Practicing persuasion and influence

【交流会】 Zoom B

Workshop 1: 2020年10月16日（金） 9:30～11:00
Barriers for women in STEM and leading change

Workshop 2: 2020年10月16日（金） 11:30～13:00
Leading teams for innovative performance

Workshop 3: 2020年10月16日（金） 13:30～15:00
Practicing persuasion and influence

【Follow-up workshop】

関東地区と関西地区で4月頃開催予定

講演・登壇者紹介



午前の部

分科会 (10:00 ~ 11:30)

講演 1 : 原田 尚美 氏

((国研) 海洋研究開発機構 地球表層システム研究センター長
第 60 次南極観測隊夏隊長)

講演 2 : 神崎 夕紀 氏

(協和発酵バイオ株式会社 常務執行役員経営企画部長)

Workshop Summary:

Dr. Lily Cushenberry

(Associate Professor, Stony Brook University's College of Business)

特別企画 (12:00 ~ 12:30)

講演 : 志牟田 美佐 氏

(東京慈恵会医科大学助教)



講演 1

「南極で活躍する女性たち」

はらだ なおみ

原田 尚美 氏

(国研) 海洋研究開発機構地球環境部門
地球表層システム研究センター センター長

最終学歴

1995年3月：名古屋大学大学院理学研究科大気水圏化学専攻博士後期課程満了博士（理学）

職歴ほか

1991年9月～1992年3月：第33次南極地域観測隊夏隊（文部技官）

1995年4月～現在に至る：(認) 海洋科学技術センター（現海洋研究開発機構）研究員

2015年9月～2020年9月：第23-24期日本学術会議第三部連携会員

2017年4月～2020年3月：地球環境史学会会長

2017年6月～現在に至る：Ecosystem Study of Sub-Arctic and Arctic Seas 共同議長

2017年11月～2019年3月：第60次南極地域観測隊副隊長兼夏隊長

2018年1月～現在に至る：Geochemical Society Board Member (Asia-Oceania Director)

2018年11月～2020年3月：国立極地研究所客員教授研究専門は生物地球化学。

北太平洋の高緯度域を中心に海底堆積物に記録されたバイオマーカーを用いた過去の環境（水温など）を解析する研究を行ってきた。現在は、北極海の海水減少にともなう海洋生物の生産や生態系の応答を明らかにする研究などを実施。



講演 2

「キリングループの多様性推進とキャリア形成
について」

かんざき ゆき

神崎 夕紀 氏

協和発酵バイオ株式会社

常務執行役員経営企画部長

出身地

福岡県宗像市

略歴

- 1982年3月 福岡県立宗像高等学校卒業
- 1982年4月 佐賀大学農学部農芸化学科入学
- 1986年3月 佐賀大学農学部農芸化学科卒業
- 1986年4月 佐賀大学農学研究科入学
- 1988年3月 佐賀大学農学研究科修了
- 1988年4月 体外診断薬メーカー入社
- 1992年3月 キリンビール入社福岡工場品質保証担当
- 1997年3月 神戸工場品質保証担当
- 1998年3月 神戸工場醸造担当
- 2004年9月 横浜工場醸造担当
- 2007年9月 栃木工場醸造担当部長
(2008年12月 日経ウーマン「ウーマンオブザイヤー2009」受賞)
- 2010年11月 生産本部生産統轄部生産管理担当主査
- 2013年10月 キリン株式会社 R & D 本部酒類技術研究所副所長
- 2015年3月 キリンビール株式会社神戸工場長
- 2017年3月 キリンビール株式会社執行役員横浜工場長
- 2019年3月 キリンビール株式会社常務執行役員横浜工場長
- 2020年3月 協和発酵バイオ株式会社常務執行役員 (現職)



Workshop summary

リリー クッシュェンベリー

Dr. Lily Cushenberry

Associate Professor of Management at Stony Brook University

Director of the Leadership & Creativity Research Lab in the College of Business

Dr. Lily Cushenberry is a tenured Associate Professor of Management at Stony Brook University and the director of the Leadership & Creativity Research Lab in the College of Business.

Her research in leadership, innovation, and conflict applies science-based approaches to practical organizational problems. Her work focuses on 1) the process by which leaders overcome failures and 2) the dynamics of innovative teams. Her primary research examines the consequences of leader mistakes and mistake recovery on leader-follower relationships. Her innovation research includes constructs such as team member influence, team climate, and malevolence. Dr. Cushenberry's research has been published in *Organizational Behavior and Human Decision Processes*, the *Journal of Organizational Behavior*, *The Leadership Quarterly*, *Advances in Developing Human Resources*, *Human Resource Management Review*, and *The Journal of Creative Behavior*. Her work has also been featured in *Fortune*, *Fast Company*, *Business Insider*, *Inc.*, and *Pacific Standard Magazine*.

Dr. Cushenberry is an award-winning teacher in the Stony Brook University MBA program. She also serves as the Director of Graduate Training for the College of Business, and has taught hundreds of professionals in corporate, non-profit, and university environments.

Her consulting clients include the North Atlantic Treaty Organization (NATO), Del Monte Foods, Brookhaven National Labs, PNC Bank, Gold Coast Bank, Stony Brook Medicine. In addition, Dr. Cushenberry serves on the Executive Committee of the Board of Directors for Planned Parenthood Hudson Peconic, a New York affiliate of Planned Parenthood Federation of America.

Prior to joining Stony Brook, Dr. Cushenberry was a Post Doctoral Research Fellow at the International Center for the Study of Terrorism researching the process of terrorist deradicalization for a grant from the Office of Naval Research working with domestic and international government defense agencies. Dr. Cushenberry received her Ph.D. in Industrial-Organizational Psychology from Penn State University and a B.A. in Psychology from California State University, Fresno. For more information, please visit www.theLCLab.com.



特別企画

緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査報告

しむた みさ
志牟田 美沙 氏

東京慈恵会医科大学 薬理学講座 助教

日本生理学会 男女共同参画推進委員
大規模アンケート設問設定・解析 委員
提言・要望書WG 委員

略歴

東京理科大学理学部数学科卒。東京医科歯科大学、東京大学を経て2000年神戸大学にて学位を取得（医学博士）。2001年東京大学医科学研究所研究員。2003年出産のため研究活動を中断。2004年渡英。英国では第2子出産を期に現地の保育ボランティア活動を行う。2006年ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンにて非常勤研究員として研究職に復帰。2011年より現職。専門は神経生理学。

講演・登壇者紹介



午後の部

シンポジウム (10:00 ~ 17:40)

第18期幹事学会挨拶: 吉田 稔 氏

(日本農芸化学会会長・理化学研究所・東京大学教授)

共催者挨拶: 大矢 祐治 氏

(日本大学副学長・生物資源科学部学部長・日本大学教授)

共催者挨拶: Kelsey De Rinaldis 氏

(Assistant Cultural Affairs Officer, U.S. Embassy, Tokyo)

来賓挨拶: 松尾 泰樹 氏

(文部科学省 文部科学審議官)

来賓挨拶: 林 伴子 氏

(内閣府 男女共同参画局局长)

基調講演1: 上野 千鶴子 氏

(東京大学名誉教授・認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長)

基調講演2: Dr. Elizabeth Lyons

(Program Director, Office of International Science and Engineering, National Science Foundation)

基調講演3: 渡辺 美代子 氏

(科学技術振興機構副理事)

基調講演4: 栗原 和枝 氏

(東北大学名誉教授・NICHe 教授, 男女共同参画学協会連絡会第8期委員長(第5期副委員長))

パネルディスカッション司会:

北川 尚美 氏

(東北大学教授, 男女共同参画学協会連絡会第15期委員長)

第18期委員長挨拶: 熊谷 日登美 氏

(日本農芸化学会・日本大学生物資源科学部教授)

第19期委員長挨拶: 岩熊 まき 氏

(日本技術士会・株式会社東建エンジニアリング R&D センター所長)



第18期幹事学会挨拶

よしだ みのる

吉田 稔 氏

日本農芸化学会会長

理化学研究所 環境資源科学研究センター 副センター長

東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

1986年東京大学大学院農学系研究科博士課程修了（農学博士）、同年東京大学助手。1995年同助教授を経て2002年より理化学研究所主任研究員（吉田化学遺伝学研究室）。2013年より理化学研究所基幹研究所グループディレクター、2018年環境資源科学研究センターグループディレクター、2020年より同副センター長。また、2017年より東京大学大学院農学生命科学研究科教授（クロスアポイント）も務める。

微生物が生産する生理活性物質の作用機序研究に取り組み、ヒストン脱アセチル化酵素、タンパク質核外輸送因子、スプライシング因子等を発見し、それらの創薬における重要性を明らかにした。

2009年バイオインダストリー協会賞、2010年文部科学大臣表彰科学技術賞、2011年日本農芸化学会賞、2015年日本学士院賞などを受賞。

日本農芸化学会会長のほか、日本分子生物学会理事、日本癌学会評議員、文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）プログラムディレクター代理などを務める。



共催者挨拶

おおや ゆうじ
大矢 祐治 氏

日本大学副学長・生物資源科学部長
日本大学教授

昭和52年日本大学農獣医学部食品経済学科卒業

平成10年日本大学生物資源科学部助教授

平成18年同教授

平成27年日本大学生物資源科学部長・同大学院生物資源科学研究科長・同大学院獣医学研究科長、日本大学評議員・理事

令和2年日本大学副学長



共催者挨拶

ケルシー デ リナルデイス

Kelsey De Rinaldis 氏

Assistant Cultural Affairs Officer
the U.S. Embassy in Tokyo

Kelsey De Rinaldis is a Foreign Service Officer with the U.S. Department of State, where she currently serves as the Assistant Cultural Affairs Officer in the Public Affairs Section of the U.S. Embassy in Tokyo, Japan. She previously served as a Consular Officer in Kingston, Jamaica. Prior to the State Department, Kelsey managed grants in Albania, Kosovo, and Macedonia from her base in Belgrade, Serbia. Originally from Colorado, she participated in a Sister City Exchange to Moriya, Japan while in high school. Kelsey earned a bachelor's degree in international studies, German, and Russian from the University of Denver. She is fluent in Russian, and speaks some Italian and Japanese.

ケルシー・デリナルデイス米国国務省の外交官。現在、東京、在日米国大使館広報文化交流部文化交流担当官補として勤務。前任はジャマイカ、キングストン米国大使館、領事担当官。国務省に入省する前は、セルビアを拠点にアルバニア、コソボ、マケドニアの助成金を管理。出身地コロラド州の姉妹都市、守谷市の高校に交換留学経験がある。デンバー大学より学士号（国際関係、ドイツ語、ロシア語）を取得。ロシア語に堪能で、イタリア語と日本語も話す。



来賓挨拶

まつお ひろき

松尾 泰樹 氏

内閣府政策統括官

(科学技術・イノベーション・原子力担当)

昭和37年10月26日生

出身地 青森県

- 昭和60.3 東京大学理学部物理学科卒業
- 61.10 国家公務員採用I種試験（物理）合格
- 62.3 東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程修了
- 62.4 科学技術庁科学技術振興局企画課
- 63.4 科学技術振興局国際課
- 平成 1.5 科学技術振興局国際課国際交流推進室
- 1.7 科学技術振興局国際課国際交流推進室推進係長
- 2.4 研究開発局ライフサイエンス課ライフサイエンス係長
- 4.3 研究開発局企画課総括係長
- 5.4 原子力局政策課立地地域対策室専門職
- 5.10 原子力局政策課課長補佐（総括担当）
- 7.4 外務省経済局（総務参事官室）（課長補佐級）
- 9.9 科学技術庁長官官房秘書課専門職
- 10.4 外務省在中華人民共和国日本国大使館一等書記官
- 13.6 文部科学省大臣官房人事課専門官
- 13.7 科学技術・学術政策局政策課課長補佐
- 14.9 大臣官房人事課人事企画官
- 17.9 研究振興局ライフサイエンス課長
- 19.1 研究開発局研究開発戦略官
- 20.7 独立行政法人理化学研究所横浜研究所研究推進部長
- 22.8 文部科学省高等教育局学生・留学生課長
- 23.4 (併) 高等教育局学生・留学生課留学生交流室長
- 25.7 科学技術・学術政策局人材政策課長
- 26.7 大臣官房参事官
- 28.1 大臣官房審議官（高等教育局担当）
- 30.1 大臣官房審議官（科学技術・学術政策局担当及び高等教育局担当）
- 30.6 大臣官房審議官（科学技術・学術政策局担当）
- 30.7 科学技術・学術政策局長
- 令和 1.7 内閣府政策統括官科学技術・イノベーション担当
- 2.8 文部科学省文部科学審議官



来賓挨拶

はやし ともこ

林 伴子 氏

内閣府男女共同参画局長

略歴

- 1987年 東京大学卒業後、旧経済企画庁入庁
- 1994年 ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）経済学修士号取得
- 1998年 OECD経済発展審査委員会（日本政府代表部）
- 2006年 内閣府歳出・歳入一体改革補佐室参事官
- 2008年 内閣府参事官（海外経済分析担当）
- 2011年 内閣府参事官（経済対策・金融担当）
- 2013年 内閣府参事官（経済社会システム・総括担当）
- 2014年 内閣官房副長官補付内閣参事官（内政総括）
- 2016年 内閣府大臣官房審議官（経済財政分析担当）
- 2019年 内閣府政策立案総括審議官
- 2019年 OECD経済政策委員会副議長
- 2020年 内閣府男女共同参画局長



基調講演 1

「男女共同参画はゴールかツールか？」

うえの ちづこ

上野 千鶴子 氏

社会学者・東京大学名誉教授

認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN)
理事長

富山県生まれ。京都大学大学院社会学博士課程修了。平安女学院短期大学助教授、シカゴ大学人類学部客員研究員、京都精華大学助教授、国際日本文化研究センター客員助教授、ボン大学客員教授、コロンビア大学客員教授、メキシコ大学院大学客員教授等を経る。1993年東京大学文学部助教授（社会学）、1995年から2011年3月まで、東京大学大学院人文社会系研究科教授。2012年度から2016年度まで、立命館大学特別招聘教授。2011年4月から認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN) 理事長。専門は女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアであり、指導的な理論家のひとり。高齢者の介護とケアも研究テーマとしている。

1994年『近代家族の成立と終焉』（岩波書店）でサントリー学芸賞受賞。2011年度、「朝日賞」受賞。受賞理由「女性学・フェミニズムとケア問題の研究と実践」2019年、フィンランド共和国からHän Honours受賞（長年の男女平等への貢献に対する感謝状）

『上野千鶴子が文学を社会学する』（朝日新聞社）、『差異の政治学』『生き延びるための思想』（岩波書店）、『当事者主権』（中西正司と共著、岩波新書）、『ニーズ中心の福祉社会へ』（中西正司と共編、医学書院）『岩波シリーズケアその思想と実践』（共編著、全6巻、岩波書店）、『世代間連帯』（辻元清美と共著、岩波新書）、『家族を容れるハコ家族を超えるハコ』（平凡社）、『老いる準備』（学陽書房）、『おひとりさまの老後』『男おひとりさま道』（法研）、『ひとりの午後』（NHK出版）、『女ざらい』（紀伊國屋書店）、『女は後半からがおもしろい』（坂東眞理子と共著、潮出版）、『結婚帝国』（信田さよ子と共著、河出書房）、『不惑のフェミニズム』（岩波現代文庫）、『ケアの社会学』（太田出版）、鼎談『フェミニズムの時代を生きて』（岩波現代文庫）、『現代思想総特集上野千鶴子』（青土社）、DVDブック『生き延びるための思想』（講談社）、『ナショナルリズムとジェンダー』（岩波現代文庫）、『生き延びるための思想』（岩波現代文庫）、『快樂上等』（幻冬舎）、『みんな「おひとりさま」』（青灯社）、『上野千鶴子が聞く小笠原先生、ひとりで家で死ぬますか？』（朝日新聞出版）『身の下相談にお答えします』（朝日新聞出版）『<おんなの思想>私たちはあなたを忘れない』（集英社インターナショナル）『女たちのサバイバル作戦』（文藝春秋社）、『ニッポンが変わる、女が変わる』（中央公論新社）、『上野千鶴子の選憲論』（集英社新書）『何を怖れる』（岩波書店・共著）、『老い方上手』（共著・WAVE出版）、『ケアのカリスマたち看取りを支えるプロフェッショナル』（亜紀書房）、対談集『思想をかたちにする』『セクシュアリティをことばにする』（いずれも青土社）、『非婚ですが、それが何か？』（対談集・ビジネス社）。『おひとりさまの最期』（朝日新聞出版）、『上野千鶴子のサバイバル語録』（文藝春秋社）、『時局発言！』（WAVE出版）、『また身の下相談にお答えします』（朝日新聞出版）、『世代の痛み団塊ジュニアから団塊への質問状』（中公新書ラクレ）、『おひとりさまVSひとりの哲学』（朝日新書）、『戦争と性暴力の比較史へ向けて』（編著・岩波書店）『情報生産者になる』（筑摩書房）『女ざらいニッポンのミソジニー』（朝日新聞出版・文庫）など著書多数。最新刊に『上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください！』（大和書房）がある。WAN URL <http://wan.or.jp/>



基調講演 2

「Advancing Women in STEM: NSF Experiences Through the Decades」

エリザベス ライオンズ

Dr. Elizabeth Lyons

Program Director, Office of International Science and Engineering, National Science Foundation

Elizabeth (Libby) Lyons works in the U.S. National Science Foundation's Office of International Science and Engineering where she helps American universities, scientists, and students build international networks and collaborations. She has served at NSF for over 23 years, including as Head of NSF's Tokyo Regional Office in 2016, as Program Coordinator for NSF's flagship international program, the Partnerships for International Research and Education, as a Senior Advisor loaned to the U.S. Department of State for 3.5 years, and as a Program Director in the Directorate for Biological Sciences.

In her decades at NSF Dr. Lyons has been a strong advocate for increasing the participation, prominence, and influence of women in U.S. S&T, spearheading activities such as organizing a recent international event on NSF's groundbreaking Sexual Harassment Policy, hosting a visit to NSF by the Director of iGIANT (impact of Gender/Sex on Innovation and Novel Technologies), representing NSF and U.S. Embassy Tokyo in 2016 with speeches at several Japan universities and the World Assembly for Women, and developing and running an NSF-wide funding program in the 1990's called POWRE (Professional Opportunities for Women in Research and Education).

She has written multiple articles about U.S. international S&T engagement, most recently "How Collaborating in International Science Helps America", published in 2016 in Science & Diplomacy. Before moving to NSF, she served on the faculties of Northwestern University and Amherst College. She earned an A.B. in Sociology from Harvard University, a Masters of Forest Science from Yale University, and a Ph.D. in Botany and Genetics from Duke University. She is an avid birdwatcher and Red Sox fan.



基調講演 3

「ポストコロナ社会の男女共同参画」

わたなべ みよこ

渡辺 美代子 氏

科学技術振興機構副理事

1979年東京理科大学理学部物理学科卒業、同年東芝総合研究所研究員、化合物半導体の研究に従事、理学（論文）博士。1986年カナダダルハウジー大学ポスドク。1996年アトムテクノロジー研究体研究員として半導体ナノテクノロジーの研究に従事。1997年英国バーミンガム大学客員研究員を経て、2002年東芝研究開発センター材料応用技術センター長、2004年東芝経営監査部参事、2005年同電力・社会システム社技術管理部グループ長、2006年同研究開発センター技術管理部門長、2009年同イノベーション推進本部経営変革統括責任者を務めた。2014年より科学技術振興機構執行役（現・副理事）、同機構にて科学コミュニケーションセンター長とダイバーシティ推進室長を併任し、サイエンスアゴラおよびジェンダーサミット10双方の議長を務めた。2018年より内閣府STEM Girls Ambassador。このほか、日本学術会議第24期副会長、現在、内閣府男女共同参画会議の専門委員、World Science Forumの組織委員などを兼任。



基調講演 4
「学協会による男女共同参画の歩み」

くりはら かずえ
栗原 和枝 氏
東北大学名誉教授・NICHe教授
男女共同参画学協会連絡会第 8 期委員長
(第 5 期副委員長)

学歴：1979年東京大学大学院工学系研究科修了・工学博士。

専門分野：コロイドおよび界面科学・高分子。

職歴：1979年東京大学技官などを経て、1987年ERATOグループリーダー、1992年名古屋大学助教授、1997年東北大学反応化学研究所（現多元物質科学研究所）教授、2010年同大原子分子材料科学高等研究機構教授（多元研教授兼務）、2016年東北大学名誉教授、2017年同大未来科学技術共同研究センター教授（現在に至る）。

公職：2005年～日本学術会議会員（第20～22期）、2007年～文部科学省独立行政法人評価委員会委員、2007年男女共同参画学協会連絡会副委員長、2010年男女共同参画学協会連絡会委員長、2012年～International Association of Colloid and Interface Scientists 会長、他。

受賞：2000年日本化学会学術賞、2011年オーストラリア化学会 A.E.Alexander Lectureship Award、2013年IUPAC 2013 Distinguished Women in Chemistry or Chemical Engineering Award、2016年高分子学会高分子科学功績賞、2018年科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞、他。



パネルディスカッション
司会

きたがわ なおみ

北川 尚美 氏

東北大学教授

男女共同参画学協会連絡会第15期委員長

略歴

- 1985年3月 埼玉県立川越女子高等学校卒業
- 1989年3月 東北大学工学部化学工学科卒業
- 1991年3月 同大学院工学研究科博士課程前期化学工学専攻修了
- 1994年3月 同大学院工学研究科博士後期課程 化学工学専攻修了、博士（工学）を取得
- 1994年4月 通商産業省工業技術院東北工業技術研究所非常勤研究員
- 1994年5月 東北大学反応化学研究所（現 多元物質科学研究所）助手
- 1996年4月 東北大学大学院工学研究科助手
- 2002年10月 同大学院工学研究科准教授
- 2017年5月 同大学院工学研究科教授

研究分野：化学工学、反応工学、生物工学



第18期委員長挨拶

くまがい ひとみ

熊谷日登美 氏

日本大学生物資源科学部 教授

男女共同参画学協会連絡会 第18期委員長

日本学術会議 会員

お茶の水女子大学大学院家政学研究科食物学専攻 修士課程修了
東京大学大学院農学系研究科農芸化学専攻 博士課程修了（農学博士）
日本大学生物資源科学部 助手，講師，准教授を経て現在教授
この間，2000年3月から1年間，2人の子供を連れ，
イギリスThe University of Nottinghamで海外派遣研究員

2006年 第11回安藤百福賞 優秀賞受賞

2016年 日本食品科学工学会 学会賞受賞

専門は食品科学

日本農芸化学会 ダイバーシティー推進委員会 委員長

日本大学生物資源科学部 男女共同参画推進委員会 委員長



第 19 期委員長挨拶

いわくま

岩熊 まき（眞起）氏

株式会社東建エンジニアリングR&Dセンター所長

公益社団法人日本技術士会副会長

株式会社東建エンジニアリング R&D センター所長

主な経歴等

千葉大学園芸学部卒

株式会社建設技術研究所 株式会社東京建設コンサルタント を経て現職

独立行政法人国立高等専門学校機構理事（2010－2014）

独立行政法人国立女性教育会館運営委員（2014－現在）

公益社団法人日本技術士会 理事（2005－2007） 副会長（2007－2009）

男女共同参画推進委員長（2011－2015） その他委員歴任

公益社団法人日本技術士会フェロー 公益社団法人土木学会フェロー

技術士（応用理学 文部科学省登録 15111）

第 18 期委員長挨拶



熊谷 日登美

(日本農芸化学会・日本大学生物資源科学部・教授)

男女共同参画学協会連絡会 (Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE)) は、正式加盟 54 団体、オブザーバー加盟 56 団体 (10 月 17 日現在) で構成されており、100 団体を超える組織となっております。日本農芸化学会は昨年 11 月より第 18 期幹事学会として活動を開始してきました。日本農芸化学会は、ビタミン B₁ の発見者である鈴木梅太郎博士により、1924 年に設立された 100 年近くの歴史を持つ学会です。2020 年 2 月 29 日現在、会員は 10,114 名で、このうち一般会員は 7,499 名 (女性 1,441 名: 19%)、学生会員は 2,615 名 (女性 1,096 名: 42%) になっています。女子学生の会員は増えてきているものの、このことが、正会員増になかなかつながりません。2012 年に日本農芸化学会が男女共同参画学協会連絡会に加入した当初は、委員会等の女性比率もそれ程高くありませんでしたが、学協会連絡会で行っている加盟学協会の女性比率調査による現状の把握や、2015 年に設置された男女共同参画委員会 (現 ダイバーシティ推進委員会) の活動等で、女性を増やそうという気運がたかまり、多くの委員会で女性比率が増加しました。しばらくは、現状を数値化し、意識して女性を「見える化」することが大切と考えています。第 18 期幹事学会の活動は、このダイバーシティ推進委員会の委員で分担して行ってきました。第 18 期に行った主なことは、1) 一般社団法人への法人化、2) 緊急事態宣言が科学者・技術者に与えた影響についての実態調査、3) 第 6 期科学技術・イノベーション基本計画策定に対する提言・要望活動になります。

男女共同参画学協会連絡会は、任意団体であるということが長年、組織の課題となっておりました。この第 18 期の間で開催した 3 回の運営委員会において法人化について検討し、11 月 1 日からは、一般社団法人となることが決まりました。一般社団法人になっても運営形態はほとんど変わりませんが、これまでと異なるのは、個人会員というカテゴリーができること、および、オブザーバー学協会会員は有期会員となることです。これにより、所属学協会での男女共同参画委員を退任しても、個人会員になれば、学協会連絡会の活動に参加できることとなります。また、オブザーバー学協会会員は、3 年で正式加盟学協会会員になります。法人化することにより、学協会連絡会が、より発展していくことを願っております。

5 月 15 日～6 月 13 日にかけて実施した新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が科学者・技術者に与えた影響についての実態調査では、学協会連絡会に所属する自然科学系

学協会の会員だけでなく、人文社会科学系学会の研究者も含めた計 11,112 人が回答してくださいました。回答者の多くが、今後の研究や教育に不安を抱いており、特に、任期・契約期間付き職や学生の方の状況が深刻であることが伺えました。また、家事・育児の負担が増え、勤務の支障となったという回答は女性に多くみられました。このアンケートについては、新聞社やNHKから取材を受けました。アンケート結果の詳細は、ホームページに掲載している報告をご覧ください。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、第2回目と第3回目の運営委員会はウェブ開催になりました。当初は、スムーズな運営ができるか心配でしたが、遠方の方や、育児・介護中の方も参加しやすくなったため、出席者は通常の約 1.5 倍になり、また、進行にも問題はありませんでした。今後は、ウェブ開催がスタンダードの形になると思います。

今年、第6期科学技術・イノベーション基本計画の策定の年であることから、提言・要望活動も活発に行いました。内閣府 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）の議員や文部科学省の方々とウェブで面談し、数値目標の設定等による女性研究者の戦略的増加策や若手女性研究者の効果的支援について、基本計画に入れていただくよう要望しました。パブコメが始まりましたら、ぜひ皆様のご意見も出していただきたく、お願い申し上げます。

女性研究者の割合は伸びてきていますが、このままの伸び率では、第5期科学技術基本計画での目標値でした 30%に達するのは 2060 年頃になってしまいます。学位を取得した人達が研究者としてのポストを得て、研究を続けることができれば、この傾きは大幅に増加します。今はまだ、アフーマティブ・アクション等により、意識して女性を増やさなければならない時期ですが、女性比率がある一定割合を超えると、無意識のバイアスは払拭され、自然に増えてくるようになります。1日も早くそのような時が来ることを願って、「女性研究者・技術者の意志・能力・創造性を活かすために～女性リーダーが例外ではない社会をめざして～」というテーマでシンポジウムを企画いたしました。このシンポジウムでは、既にリーダーになって活躍しておられる方々に、それぞれのお立場で取り組んでこられたことや、男女共同参画に関するお考えをお話していただきます。また、前日の 10 月 16 日には、これからリーダーになっていられる方を対象にした「若手女性研究者のリーダーシップ育成とネットワーク構築のための Workshop」を開催いたします。この Workshop では、講師の講義を聴いた後、参加者の交流会を開催し、異なる分野の研究者とのネットワーク構築を行います。この Workshop を通じてリーダーシップを育成し、各分野において、将来のリーダーが育つことを願っております。最後に、第 18 期の活動を支援して下さった皆様に、心から御礼と感謝を申し上げます。

第 18 期 男女共同参画学協会連絡会 担当



第 18 期幹事学会 公益社団法人 日本農芸化学会

統括、運営

委員長	熊谷 日登美	日本大学生物資源科学部
副委員長	裏出 令子	京都大学複合原子力科学研究所
副委員長	野尻 秀昭	東京大学生物生産工学研究センター

シンポジウムWG

主 査	熊谷 日登美	前 掲
委 員	安保 充	明治大学農学部
委 員	飯嶋 益巳	東京農業大学応用生物科学部
委 員	上田 賢志	日本大学生物資源科学部
委 員	裏出 令子	前 掲
委 員	恩田 真紀	大阪府立大学大学院理学系研究科
委 員	亀谷 将史	東京大学大学院農学生命科学研究科
委 員	新町 文絵	日本大学生物資源科学部
委 員	竹中 麻子	明治大学農学部
委 員	辻 智子	(株)吉野家ホールディングス
委 員	野尻 秀昭	前 掲
委 員	袴田 航	日本大学生物資源科学部
委 員	室田 佳恵子	島根大学生物資源科学部
委 員	山口 勇将	日本大学生物資源科学部
委 員	吉永 直子	京都大学大学院農学研究科

第 18 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムプログラム

2020 年 10 月 17 日発行
発行 男女共同参画学協会連絡会
<http://djrenrakukai.org.jp/>

[禁無断転載]

本紙に掲載する著作物を転載または引用する場合には、掲載する刊行物に「第 18 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムプログラム」から転載または引用した旨を付記下さるようお願いいたします。

Vector Graphic by WebDesignHot (<http://www.WebDesignHot.com>)



EPMEWSE

第18期
男女共同参画学協会
連絡会事務局

JSBA 公益社団法人
日本農芸化学会
The Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry

Design by Naoko Yoshinaga

Photo by engine akyurt on Unsplash